



第 79 号 2025.12

# あまみ市議会だより



▲ 8 月 5 日 奄美市中学生ひかり議会

市内の各中学校の代表者14人が参加し奄美市の様々な課題について質問しました

## 奄美・沖縄 世界自然遺産



### 第 3 回定例会

令和 7 年 9 月 8 日～ 10 月 8 日

発行／奄美市議会  
編集／奄美市議会だより編集委員会  
〒 894-8555  
鹿児島県奄美市名瀬幸町 25 番 8 号  
TEL：(0997) 52-1111  
FAX：(0997) 52-2815  
Eメール：gikai@city.amami.lg.jp

第 3 回定例会 一般質問・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P2 ～ P7

第 3 回定例会の主な議案・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P8 ～ P9

第 3 回定例会 常任委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P9

決算等審査特別委員会の審査概要・・・・・・・・・・ P10 ～ P11

あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P12

# 市政を問う

一般質問とは、議員が、市政全般にわたる施策の状況や方針などについて市の考えを問うものです。9月9日から12日の4日間で15名の議員が市当局に問い質しました。

主な項目について、議員本人が質問と答弁を要約したものをご紹介します。なお、紙面の都合により掲載できなかった内容は、録画配信で是非ご視聴ください。

## 1日目

- 1 瀧 真一郎
- 2 前田 要
- 3 朝木 一仁
- 4 帯屋 誠二

## 2日目

- 1 与 勝広
- 2 大庭 梨香
- 3 川口 幸義
- 4 栄 ヤスエ

## 3日目

- 1 盛 剛
- 2 幸多 拓磨
- 3 竹山 耕平
- 4 崎田 信正

## 4日目

- 1 西 忠男
- 2 奥 晃郎
- 3 永田 清裕

録画配信は  
こちら→  
(YouTube)



奄美市 議会録画配信

## 第62回奄美まつりについて等



瀧 真一郎  
無所属  
(総務企画委員)

**問** 本年度の奄美まつり運営における昨年度からの変更点について

**答** 【花火大会】予算の拡充対応として、従来の企業の皆様や市民の皆様からの寄付に加え、ふるさと納税制度の1つであるガバメントクラウドファンディングを活用。【八月踊り】遠方から参加いただく団体様を考慮し、伊津部小学校グラウンドを駐車場として開放。【パレード】パレード開始前のオープニングとして子どもたちによるダンスを披露する場を設定。【舟こぎ競争】①熱中症対策として全体開催時間の短縮を目的に、一般の部の決勝までの最大漕ぎ数を4回から3回に変更。②昨年度の運営に関わる収支状況等から判断し、参加費を1チーム7000円から1万円に変更。

**問** 本年度の振り返りの計画と来年度への反映について

**答** 運営に直接関わったスタッフや関係団体からの意見聴取を実施中。時期的には予算への反映も考慮し、できる限り年内を目標に進めていく。

**問** 奄美市管理の公園数について

**答** 【条例で定める公園】名瀬46か所、住用2か所、笠利8か所

【条例で定められていないが公園として利用されている施設】名瀬12か所、住用1か所、笠利7か所

**問** 各々の公園は活用できているか

**答** 遊具の更新や老朽化等の課題はあるが、各々の設置目的に応じて活用されていると考えている。

【その他の質問事項】

◎特別認可校への対応の進捗状況確認

◎奄美市地球温暖化防止活動実行計画の進捗確認

## サトウキビの戦略チームの立ち上げについて



前田 要  
無所属  
(文教厚生委員)

**問** 笠利の基幹産業サトウキビの5年後10年後の戦略チーム立ち上げについて

**答** 本市では、生産者、奄美市、あまみ農協、富国製糖、農業委員会、鹿児島県農業共済組合、大島支庁農政普及課、農事組合法人、奄美市さとうきび受託組合の8団体を構成員とする「奄美市さとうきび振興対策協議会」があり、毎週月曜日に関係機関の担当者による「さとうきび部会」を開催して情報共有を行い、生産量向上に向けて取り組んでいる。笠利地区選出の議員を含めた話し合いの場が出来るかについては、協議会の構成員と検討していく。

【その他の質問事項】

◎宇宿保育所の今後について

◎動植物の密猟対策について

◎重要害虫セグロウリミバエの対策について

◎ソテツカイガラムシの混合薬剤について

◎奄美市笠利町公式インスタグラム【@hellokasari】について

**問** 宇宿校区のサイクリングロードの指定管理の可能性について

**答** サイクリングロードに



## 市民の安心安全な環境について



朝木 一仁  
チャレンジ奄美  
(総務企画委員)

**問** 希少種・固有種の保護について

**答** 5月に発生したオカヤドカリ不法所持事案では、ムラサキオカヤドカリ・ナキオカヤドカリを含む3種、約5200匹が確認され、日本最大規模の事案となった。再発防止として、空港での啓発や持ち出し自粛に関する共同文書を環境省、鹿児島県、地元自治体、世界自然遺産推進共同体で発出し、JALによるアナウンス多言語化されたホームページや看板、パンフレット等で周知を進めている。しかし違法トラップや大量持出しは続いており、規制有無にかかわらず生態系保全には持続的対応が必要。今後はピクトグラムを活用したポスター等で啓発を強化し、関係機関と連携して効果的な保護策を検討していく。

## 環境について

**問** 名瀬総合体育館・太陽が丘総合体育館・奄美体験交流館の空調整備と国の制度活用について

**答** 名瀬・住用・笠利地区の体育館空調設備については、職員レベルでの事例調査や見積徴収は行っているが、具体的な予算要求や庁内協議の経緯はない。空調導入は熱中症対策や大会誘致、防災拠点機能強化など利点がある一方、高額な費用が課題である。国の補助制度活用は不可欠であり、議員から案内のあった過疎対策事業債や緊急防災・減災事業債は3施設が指定避難所であるため対象となり得ることを認識している。その他制度も活用可能であり、財政状況を踏まえ総合的に検討していく。

## 市民生活と自然環境。生活環境について



帯屋 誠二  
無所属  
(総務企画委員)

**問** 市民と市長のふれあい対話について（山間地区・浜里町・小宿地区）

**答** 山間地区の石抱きガジユマルは貴重な地域観光資源であり、地域住民等と協力体制のもと後世に残していけるよう対応していきたい。お達者ご長寿事業の代行運転事業者への利用拡大は、旅客運送の許可と登録を受けていないために利用対象としていない。浜里町と周辺地区がグラウンドゴルフ場として利用している平松町コミュニティセンター用地は、来年2月をめどに売買契約締結の予定で関係機関と調整中。グラウンドゴルフ場代替地は周辺2か所の都市公園の利用を検討して頂きたい。小宿土地地区画整理事業は引き続き権利者の自主的な協議を尊重し、適切な情報提供や関係機

## 生活環境について

**問** 動植物の違法な捕獲と採取について

**答** 年間を通してパトロールや監視カメラの設置・分析を行っている。来島者の増加時期や昆虫類が捕獲されやすい時期に合わせ、警察と合同で夜間のパトロールも行っている。来島者への啓発活動と、空港での水際対策としてチャット機能を用いて種類の特定や違法性の判断をリアルタイムで行える体制を取っている。

**問** 害獣（イノシシ）対策について

**答** 市街地で被害や目撃情報を受けたら猟友会に連絡をし、通報者と連携して現地確認を行っている。捕獲可能な場合は銃器やくくりわな、捕獲箱等を使用する。捕獲困難な場合は追い払い等の方法を用いている。県の「鳥獣被害対策実践事業」に基づき、捕獲・防護柵の整備・啓発活動に総合的に取り組んでいる。

## 奄美群島振興開発特別措置法について



与 勝広  
公明党  
(産業建設委員)

**問** 奄美群島振興開発特別措置法の総括と成果について

に、人口10万人対医師数は昭和39年に40・0人であったものが令和2年には180・3人となるなど、着実に生活環境が格差是正されている。

奄美群島のインフラ整備の現況については、昭和56年の名瀬新港岸壁整備や昭和63年の新奄美空港整備など、離島において大変重要である港湾・空港の整備が着実に進められてきた。また昭和29年には奄美群島の国・県道改良率は0・9%であったのに対し、令和3年度では82・7%となっており、県全体の改良率の79・8%を上回っている。

これらの事業に要した奄振予算の総額は、国費ベースで昭和29年度から昭和48年度まで（旧自治省一括計上分）は約332億円、昭和49年度から令和5年度まで（国土交通省一括計上分）は約1兆4988億円、合計で約1兆5320億円となっている。

## 住居版地域創生戦略について



大庭 梨香  
公明党  
(文教厚生委員)

**問** 地域創生戦略の趣旨と住居未来10年計画の実現に向けた思いについて

**答** 「人と自然と文化が息づく、住んでよし・訪ねてよしのまちづくり」を基本理念に人口減少に対応できる活力あるまちづくりを目指す。令和5年の人口は1155人で昭和46年より約60%減少。本戦略に取組むことで減少率を5年ごとに10%抑制し、令和17年は796人を目指す。

10年後に住居に生まれてよかった、住んでよかったと実感できるよう取組む。

**問** 住居校区再編について

**答** 検討会を2回開催済み。9月中に保護者アンケート、12月から来年1月に保護者や住民向け説明会とパブリックコメントを実施予定。

**問** フリースクールの支援について

**答** 休眠預金活用事業に関する側面支援や、昨年度は「紡ぎきよらの郷づくり事業」において助成を実施。児童生徒に関する情報共有など連絡体制を取っている。

**問** あまみ不登校対策プロジェクト事業について

**答** 支援シートの活用研修や、SSWの新規配置のほか、あまみ不登校対策推進協議会を開催した。令和7年度7月末の不登校数は99人から81人と減少、30日以上長期欠席数も86人から79人と減少しており成果は得られている。「心の健康観察」は2学期より全校で実施。

**問** 帯状疱疹ワクチンの接種状況と50歳以上の任意助成について

**答** 7月末までの接種者数は261名で接種率は8・8%。50歳以上の任意助成は国の動向を注視し、検討課題とする。

**【その他の質問事項】**

◎妊産婦・高齢者のRSウイルスワクチン助成について

## 奄美市BPRの必要性について



川口 幸義  
自民党新国会  
(総務企画副委員長)

**問** 市長の政治姿勢について（BPRの必要性）

**答** BPRとは「現在の業務プロセスを詳細に調査・分解し、国民サービスの質の向上や人的資源の活用等の面からどのような問題点があるかを徹底的に分析して、業務プロセスそのものの再構築を図ること」で、業務改革のことを指す。本市においても住民ニーズの多様化による市独自政策の推進や国の制度改正等が進み、市全体の業務内容が増加・複雑化するなか、限られた職員で業務を遂行するためには、現在の姿を把握し、理想の姿を考え、業務の最適化に取り組むことが必要である。

今年度実施している全庁業務量調査・業務分析・BPR支援事業において大きく3つの目的を掲げている。①現状把握

## 必要性について

のため全庁で業務量調査を実施し、各所属の業務内容等の見える化に取り組む。②各事務の業務プロセスや所要時間を把握することで、行政サービスの水準を維持しながら業務改善を検討する基礎データを整備する。③調査データを全庁的に統一した業務手順書として各部署で利用できるようにする。人事異動に伴う業務の引き継ぎがより円滑に行われるほか、各部署の業務管理への活用も想定している。

**問** 奄美市小中学校の校務員について

**答** 人件費増額による財政負担の見通しも踏まえつつ、より良い学校運営の実現と校務員の安定的な勤務環境確保の両立に向け、検討を重ねてまいりたい。

**【その他の質問事項】**

◎部活動の位置づけについて（自主的・自発的な参加について他）

## 防災行政について



栄 ヤスエ  
公明党  
(総務企画委員長)

**問** 防災訓練について

**答** 今年は平成22年10月の奄美豪雨から15年の節目の年である。笠利地区では本年度から令和9年度の3年間で、全集落において、防災アドバイザーと行う避難行動訓練や防災セミナーを組み合わせた「集落防災訓練モデル事業」を実施する。

**問** 防災専門監（仮称）の配置について

**答** 防災・減災の取組をはじめ、予期せぬあらゆる有事にも備えて、専門知識や経験、関係機関とのネットワークを有する立場として非常に有益である。任用には「任期付職員の採用に関する条例」の制定が必要。県内の先行自治体の事例等を参考に作業を進めている。

**問** 見守りカメラ設置について

**答** 来島者も増え、名瀬市街地や住居・笠利地区の各集落においても必要との声がある。今後の方向性を検討している。



**問** HPV検査の導入について

**答** 現行の子宮頸がん検診の受診率向上とHPVワクチン接種率の向上に優先して取組むことが喫緊の課題。

**問** 令和8年度実施予定の「こども誰でも通園制度」導入の課題について

**答** 子どもにとっては保育士等のいる環境で同世代と関わる機会が得られ、保護者にとっては育児負担の軽減や孤立感の解消につながることを期待される。実施施設と保育人材の確保が大きな課題。

**【その他の質問事項】**

◎公立小中学校体育施設への給水機設置について



## 市長の政治姿勢について



盛 剛  
無所属  
(産業建設委員)

所は筆界未定地を含み、権利関係が未確定で事業実施が困難。県と協議を継続していく。

**問** 食の安全・島内二次産業振興策を問う

**答** 島内の食料完全自給は現実的に難しい。台風時の物資不足に備え、貯蔵施設の整備や災害時の備蓄体制の強化等、多角的な対策が必要。生産・加工体制強化、販路拡大等に努める。

**問** 島内のエネルギー問題について

**答** エネルギー自給率は1割弱程度と推計している。再生可能エネルギー導入促進は温暖化対策上重要である。太陽光発電・小型風力発電・太陽熱利用など検討を進める。

**問** 大雨による7月26日の古田地区災害について過去に災害防止の要望はなかったか

**答** 令和3年に急傾斜地崩壊対策事業導入の要望書、令和5年に再度請願が提出されたが、当該箇

**問** 災害に対応するため区長・青年団・婦人会・地区消防団員等の連絡体制を強化すべきと考えるが如何に

**答** 防災は自助・共助・公助それぞれが大切。自治会や自主防災組織の未結成地区があり、防災の面でも大きな課題。

**問** 島外資本・外国人による土地売買について

**答** 法務局からの登記異動情報には、名前、住所異動事由は表記されているが国籍記載はなし。本市では外国人による土地売買事例は把握できない。

**問** 節田地区ホテル建設計画の近況は

**答** 説明会が4回あったが、事業者と住民の間で十分な合意形成がなされておらず、着工時期など具体的な方針は示されていない。

## 奄美市の財政状況について



幸多 拓磨  
チャレンジ奄美  
(文教厚生副委員長)

**問** 奄美市の財政状況について

**答** 本市の財政状況を「財政力指数」「経常収支比率」「実質公債費比率」「将来負担比率」の4点から説明すると、「財政力指数」は自主財源で行政需要に対応できる度合いを示し、本市は0.27、類似団体全国平均0.48、県内19市平均0.4で財政基盤は弱い状況。「経常収支比率」は高いほど財政の弾力性が乏しく、本市91.2%、類似団体全国平均93.1%、県内19市平均90.3%で経常経費抑制と税収増が必要。「実質公債費比率」は借入金返済負担を示し、本市9.5%、類似団体全国平均5.6%、県内19市平均8.0%でやや高めだが、国の早期健全化基準25%を下回り健全。「将来負担比率」は将来の財政圧迫

度を示し、本市0.7%、類似団体全国平均6.3%、県内19市平均マイナス35.9%で国の早期健全化基準350%を大きく下回り健全。総じて財政基盤は厳しいが借入の将来負担は減少傾向。健全運営を行っている。

※数値は令和5年度決算のもの

**問** 名瀬総合体育館に部屋ごとの空調設備導入は

**答** 利用者の快適性や熱中症防止の観点から重要と認識。全体に空調を整備することは、建物規模や構造に加え、設置費用や維持管理経費が大きな負担となり慎重な検討が必要。一方で議員提案の武道場など利用目的や空間が限定された部屋ごとの空調整備については、費用対効果や個別空間の整備により施設の機能性を高める観点からも有効な方策になり得る。今後モ利用者の安心・安全を第一に、財政状況や施設の利用実態を踏まえて、実現可能な方策について検討を重ねていきたい。

## 子供連の大会参加費補助の強化・拡充を望む！



竹山 耕平  
自民党新国会  
(文教厚生委員長)

**問** 本土開催大会等への支援制度を見直し、保護者負担軽減と子供連が活躍する機会への支援策を望む

**答** 小学生から高校生まで支援を実施。令和6年度、中体連主催大会へ参加した381名に291万8460円を補助。また九州・全国大会へは文化系11件66名に139万9928円、スポーツ系36件152名に337万3604円を補助。物価高に加え、近年多種多様な大会が増えていることも認識している。範囲を設定し対象となる大会を絞り込むことも必要。引き続き子供連の貴重な経験を支援するため、財源等を考慮し負担軽減策の調査研究を行う。

**問** 平土地地区画整理事業の進捗について

**答** 令和3年度事業計画

変更。地権者約140名、総事業費31億6200万円。今年度評価員会で清算金の額を確定させ住民説明会を予定。令和8年度に換地計画縦覧後、換地処分を行う。事業開始から30年以上経過。今後も地域住民、権利者へ丁寧な説明を行っていく。

**問** 友好都市交流促進事業の活用について

**答** 本市と友好都市関係にある都市へ修学旅行で訪問し、地元の学校と交流を行うもの。今年度は金久中学校が活用。千葉県芝山町へ訪問し、地域の伝統文化や中学生との交流を深め見聞を広めた。来年度以降については各学校への周知や意向調査を行い参考としたい。

**問** 子育て・保健・福祉複合施設計画の設計業務の手法について

**答** 実施設計業務以降は、設計・施工分離発注方式や設計・施工一括発注方式等を検討。施設の全体像を把握した上で最も適した手法を導入したい。

## 市長の政治姿勢について 軍備拡大への見解は



嶋田 信正  
日本共産党  
(文教厚生委員)

**問** 今年は戦後80年・被爆80年となり、「戦後80年」と銘打った特集も多く、異口同音に「戦争はしてはならない」と語られている。これからのまちづくりにも影響があると思うので現在の軍備拡大をどのように捉えているか

**答** 東アジア地域における安全保障環境が危惧されており、南西諸島の防衛力の強化が一層重要となってきた。奄美大島においても、自衛隊施設の整備と活動の充実が図られつつあり、本市としても一定の理解を示している。

**問** 奄美市名瀬の町並みは大きく変化しているが末広・港土地区画整理事業についての評価は

**答** 主に用地交渉に時間を要したことで長期間の事業展開となった。基盤整備は概ね目的を達成で

きており、商業施設の再編に向けた取組みは、効果が現れつつあると理解している。おがみ山トンネル開通後は、交通量が増すことで、商店街への来客を増やすことに繋がると考えている。

**問** 介護保険制度について利用者のニーズに配慮されているか

**答** 令和6年度の介護報酬改定以降、全国で訪問介護サービスを行う事業所の減少や1か所もない自治体が増えている。本市で訪問介護サービスを提供している事業所は、平成30年以降、新規が3か所、統合・廃止も3か所、23か所と変わっていない。令和4年の高齢者実態調査では「希望する介護保険サービス全て又は一部利用している」が約9割で、今のところ訪問介護サービスは充足していると認識している。

## Uターン・Iターンについて



西 忠男  
チャレンジ奄美  
(文教厚生委員)

**問** 過去5年間のU・Iターンの推移について

**答** 転勤による転入者数を除く移住者数は、令和2年度421人、令和3年度470人、令和4年度326人、令和5年度はUターンが259人、Iターンが65人の合計324人、令和6年度はUターンが210人、Iターンが74人の合計284人。

(令和4年度まではUターンとIターンを区別して集計していなかったため総数のみ)

**問** 外国人の移住について

**答** 本市の令和7年7月末現在の住民登録者3万9712人のうち、外国人の住民登録者は、男性110人、女性93人で合計203人となっている。

**問** 御殿浜公園の駐車場運用・伐採等について

**答** 公園の維持管理については県と本市が管理委託

契約を締結しており、トイレ清掃・駐車場管理・簡易な修繕等については開発公社が行っている。目的外駐車が多い実態は把握しており、大島支庁と連携しながら施錠の要否や運用方法について検討を進めてまいりたい。また、伐採等の植栽管理については本市の委託業務には含まれておらず、県職員による伐採のほか、「みんなの港サポーター」等のボランティアの協力をいただいている。利用者からの要望等が寄せられた場合は速やかに大島支庁と情報共有を行い、他の都市公園と同様に安心、快適に公園を利用できるように努めていく。

**問** その他の質問事項

◎来年4月から導入される自転車の反則金について

◎教科書の採択について  
◎中学生の政治参加に関する教育や指導について  
◎奄美市の定住促進住宅入居について  
◎矢羽根型道路標示について

## 市長の政治姿勢について



奥 晃郎  
自民党新公会  
(総務企画委員)

**問** 人口増加に取組んできた施策は

**答** 本市の施策は「若者や子育て世代の定着」「移住・定住の促進」「交流人口・関係人口の拡大」により、人口減少のスピードを抑制し、地域の活力を維持していく方向で取組んできた。

現在の人口動態については、令和3年1月から令和6年12月末と比較したときに、自然動態については、名瀬・住用・笠利の3地区ともに減少している一方で、社会動態については、名瀬は減少しているが、住用では10人、笠利では16人の増加となっている。

昨年度策定した「奄美市『未来づくり』総合戦略2025」において、地域住民やUターン者が、本市に帰りたい、住みたいと思えるしまとなるように

うに「就業支援・住まい確保」に取組むとともに、医療や福祉、防災など安心安全に生活するための定住環境の整備にも取組むこと、また地域内経済循環を促進し、地域経済の「稼ぐ力」を高めることで、社会動態をプラスにするという目標を掲げている。

具体的施策として、空き家の活用促進に取組み、定住促進に向けた住環境を整備、移住・定住住宅購入費補助や移住・定住住宅リフォーム等助成金など住まい確保の支援に努めている。

また、市内事業所の人材確保や就業環境向上を図るため、「働きやすい職場づくり」に取組む事業者や求人活動に積極的に取組む事業者への支援を行っている。



## 安田市政1期の総括と 2期目の抱負について



永田 清裕  
自民党新幹会  
(産業建設委員)

**問** 市長を務めた4年間の率直な思い

**答** 議員として政策を提案する立場から、市長として全体の責任を担い決断する立場に変わり、議員時代とはまた違う重責を実感している。4年間に振り返ると数々の課題に市民の皆様や企業、大学など多様な主体と共に取組み、本市の可能性と力強さを改めて感じる機会となった。

**問** 市長に臨むにあたり掲げた88項目マニフェスト（選挙公約）の達成感について

**答** マニフェストの達成状況は、評価基準5段階中、88項目全てが3以上の評価である。4以上の項目は56項目で、概ね6割の項目について取組みが前進していると考えている。一方で観光による経済波及効果の拡大やス

マート農業の推進、医療・地域福祉の充実等については今後も取組みを強化し、推進していく必要性を感じる。

**問** 2期目に臨む抱負は

**答** 最も重要な課題は「人口減少対策」であり、1期目から取組んでいる事業のさらなる充実を図り、できる限り人口減少を抑制する施策に引き続き取り組む必要があると考えている。また物価高騰対策についても、今なお物価高により市民生活や地域経済に大きな影響が及んでいる現状を踏まえ、今後とも国・県の施策と連動して、家計への負担軽減と生活の安心確保を図っていききたい。

**問** 金作原の試行ルールについて

**答** ルール改正により「地域の方々が学ぶ機会の確保」がより可能になった。

【その他の質問事項】

◎世界自然遺産登録から4年、環境保全と経済効果について

## 令和7年度 第2回奄美市議会議員研修会

テーマ「地方議会における議員定数・報酬等の在り方について」

現在、奄美市議会では「議員定数・報酬等特別委員会」を設置し、今後の議員定数・報酬等の在り方について検討しています。

8月8日には、全国市議会議長会 政務第一部長兼企画議事部法制主幹 本橋 謙治 氏を講師としてお招きし、全国的な視点から地方議会における議員定数・報酬の在り方について講演と意見交換を行っていただきました。



▲ 本橋講師



## 永年在職議員表彰

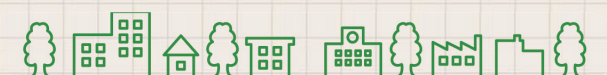
第101回全国市議会議長会定期総会において、多田 義一議員が20年永年在職議員表彰を受けました。



## アンケートへのご協力 ありがとうございました

9月1日から10月31日まで実施していた「奄美市議会の議員定数・報酬等に関する市民アンケート」につきまして、多くの市民の皆様から貴重なご意見を賜うことができました。

いただいたご意見は、奄美市議会の議員定数・報酬等の在り方の検討に活かしてまいります。



### 第3回定例会の議案

議案等番号	件名	議決結果	付託委員会
	出資法人の経営状況を説明する書類の提出について		
	令和6年度健全化判断比率報告書及び資金不足比率報告書の提出について		
議案第 66 号	令和7年度奄美市一般会計補正予算（第4号）について	原案可決	全委員会
議案第 67 号	令和7年度奄美市国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）について	原案可決	文教厚生
議案第 68 号	令和7年度奄美市国民健康保険直営診療施設勘定特別会計補正予算（第1号）について	原案可決	文教厚生
議案第 69 号	令和7年度奄美市後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）について	原案可決	文教厚生
議案第 70 号	令和7年度奄美市介護保険事業特別会計補正予算（第1号）について	原案可決	文教厚生
議案第 71 号	令和7年度奄美市訪問看護特別会計補正予算（第1号）について	原案可決	文教厚生
議案第 72 号	令和7年度奄美市水道事業会計補正予算（第2号）について	原案可決	産業建設
議案第 73 号	令和7年度奄美市下水道事業会計補正予算（第2号）について	原案可決	産業建設
議案第 74 号	奄美市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決	総務企画
議案第 75 号	奄美市職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決	総務企画
議案第 76 号	奄美市企業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決	産業建設
議案第 77 号	奄美市農業集落排水処理施設条例等の一部を改正する条例の制定について	原案可決	産業建設
議案第 78 号	財産の取得について	原案可決	文教厚生
議案第 79 号	令和6年度奄美市一般会計歳入歳出決算認定について	認定	一般会計
議案第 80 号	令和6年度奄美市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について	認定	特別会計
議案第 81 号	令和6年度奄美市国民健康保険直営診療施設勘定特別会計歳入歳出決算認定について	認定	特別会計
議案第 82 号	令和6年度奄美市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	認定	特別会計
議案第 83 号	令和6年度奄美市介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について	認定	特別会計
議案第 84 号	令和6年度奄美市訪問看護特別会計歳入歳出決算認定について	認定	特別会計
議案第 85 号	令和6年度と畜場特別会計歳入歳出決算認定について	認定	特別会計
議案第 86 号	令和6年度奄美市交通災害共済特別会計歳入歳出決算認定について	認定	特別会計
議案第 87 号	令和6年度奄美市水道事業会計の利益処分及び決算認定について	原案可決 及び認定	特別会計
議案第 88 号	令和6年度奄美市下水道事業会計の利益処分及び決算認定について	原案可決 及び認定	特別会計
発議第 4 号	ゆたかな学びの実現・教職員定数改善、義務教育費国庫負担制度の負担率の引上げに係る意見書の提出について	原案可決	本会議

### 請願・陳情の状況

受理番号	件名	提出者	議決結果	付託委員会
陳情第 8 号	景観審議会への地元集落住民意見の反映を求める陳情書	節田集落区長 長谷川 雅啓 土浜集落区長 武原 正直 和野集落区長 西田 昭仁 平集落区長 南 豊光	採択	総務企画

※前議会からの継続審査事件

受理番号	件名	提出者	議決結果	付託委員会
陳情第 3 号	ゆたかな学びの実現・教職員定数改善、義務教育費国庫負担制度の負担率の引上げをはかるための、2026 年度政府予算に係る意見書採択の陳情について	長瀬 爽	採択	文教厚生
陳情第 4 号	「カリキュラム・オーバーロード」の改善を求める意見書採択の陳情について	長瀬 爽	撤回承認	本会議



## 賛否が分かれた案件

議案番号・件名	議員名（議席番号順）																				【○賛成数】	【●反対数】		
	朝木一仁	西忠男	帶屋誠二	瀧真一郎	正野卓矢	弓削洋平	幸多拓磨	大庭梨香	叶幸治	盛剛	前田要	泉義昭	永田清裕	崎田信正	奥輝人	多田義一	栄ヤスエ	与勝広	奥晃郎	伊東隆吉			竹山耕平	川口幸義
議案第83号 令和6年度奄美市介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	-	○	○	○	○	○	○	○	20	1
議案第87号 令和6年度奄美市水道事業会計の利益処分及び決算認定について  (※利益処分については全会一致で原案可決)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	-	○	○	○	○	○	○	20	1

賛否が分かれた案件を議員ごとに掲載しています。（○は賛成・●は反対）

※奥輝人議員は議長職のため、表決権はありません。

## 第3回定例会 常任委員会 審査概要

【文教厚生】9月17日  
【産業建設】9月18日  
【総務企画】9月19日

左記の日程で議案について審査しました。  
委員会の審査について一部ご紹介いたします。

### 文教厚生委員会

令和7年度奄美市一般会計補正予算  
(第4号)

**問** その他公共施設・公用施設災害復旧費で対応した事業の内容は

**答** 7月26日未明の大雨により、永田墓地の上流から土砂が流れ、水路を塞いだことにより冠水し、通路等へも土砂が流出したため、その復旧作業を行った。作業期間は約3日。ご迷惑をおかけした方々には連絡を取り、経緯をご説明した。

財産の取得について

**問** 内容及び契約方法について

**答** 令和2年度に導入した児童生徒用タブレット端末の更新を行うもの。鹿児島県が一括して、端末の共同調達に係るプロポーザル方式での入札を行っており、本市が要望していた提案について落札した業者と契約を結ぶものである。

### 産業建設委員会

令和7年度奄美市一般会計補正予算  
(第4号)

**●** 奄美市健康体験交流施設アドバイザー業務について（債務負担行為補正）  
【当局の説明】

再活用に向けた取組については、本市では過去に例のない、民間資金を活用した公共施設の活用など、新たな取組を実施していく予定である。専門的な経験・知識を有する事業者による助言や伴走支援を受け、適切な事業実施者を募集することにより、施設の効果的な再活用を図る。

**●** 大川地区の農業用水断水に対する工事の遅れについて

**問** 農家への説明は

**答** 大川パイプライン更新推進委員会と農家代表や区長、農業委員らと協議を行い、受注生産品の遅れが原因で工事が遅延していることを説明。張り紙やチラシを作成し、関係施設などに掲示・配布して周知を図るなどの対応を行っている。

奄美市農業集落排水処理施設条例等の一部を改正する条例の制定について

【当局の説明】

災害その他の非常時、排水設備や給水装置に関する工事を行う必要性がある場合において、市内の業者がいらないことを想定し、市長が認めるときは、他町村長から指定を受けたもの等が工事を行う事ができるよう所要の規定を整備したもの。

### 総務企画委員会

令和7年度奄美市一般会計補正予算  
(第4号)

**問** 既存電算処理システム改修業務について

**答** 法改正に伴う戸籍の氏名の振り仮名記載処理については、届け出を受けた担当職員が審査をし、別の職員がダブルチェックの意味を兼ねて決裁をする流れになっている。事務処理にあたり名瀬総合支所の戸籍情報システム端末が不足していることから、届出件数が少ない住用総合支所の端末1台を名瀬総合支所へ移設するもの。

景観審議会への地元集落住民意見の反映を求める陳情書  
▼採択すべきもの

【委員からの主な意見】

○地元の意見が反映できるような仕組みを構築しなければならないと考える。

○地域住民との協定書を添付させることを検討するのが良い。

# 令和6年度決算 認定

決算等審査特別委員会では、令和6年度の予算が適正かつ効果的に執行されていたか審査を行いました。慎重に審査した結果、いずれも認定すべきものとして、10月8日の本会議において報告し、令和6年度決算は全て認定となりました。

【一般会計】 令和7年9月26日、9月29日、9月30日、10月1日

【特別会計（公営企業会計含む）】 令和7年9月26日、9月29日

## 一般会計及び特別会計の決算状況

会計名	歳入	歳出
一般会計	373 億 1,666 万円	356 億 763 万円
特別会計	116 億 5,910 万円	115 億 1,891 万円
国民健康保険事業	52 億 1,034 万円	52 億 481 万円
国民健康保険 直営診療施設勘定	2 億 7,172 万円	2 億 7,121 万円
後期高齢者医療	6 億 5,385 万円	6 億 5,331 万円
介護保険事業	54 億 6,278 万円	53 億 3,368 万円
訪問看護	2,979 万円	2,979 万円
と畜場	2,431 万円	2,406 万円
交通災害共済	629 万円	202 万円
合 計	489 億 7,577 万円	471 億 2,654 万円

※端数処理の関係で、表記している合計値と内訳の合計値が一致しない場合があります。

## 公営企業会計の決算状況

会計名	収益的収支		資本的収支	
	収入	支出	収入	支出
水道事業	12 億 5,127 万円	12 億 958 万円	3 億 935 万円	11 億 9,189 万円
下水道事業	17 億 6,672 万円	14 億 1,864 万円	7 億 1,823 万円	14 億 5,615 万円



## 一般会計決算等審査特別委員会

### 総務費

**問** 笠利地区における難聴地域について

**答** 今回、蒲生崎に中継局を設置して機能強化を実施。笠利地区全体で災害情報を受信できるようになり、空白地域を解消することができた。

### 民生費

**問** ファミリーサポートセンター事業の運営状況について

**答** 令和5年度から令和6年度にかけて利用会員数は55名減少したがサポート会員は33名増加。サポート会員増加に伴い援助活動も増加している。事務作業は煩雑化しているが丁寧な対応を心掛けながら運営している。

### 労働費

**問** 特定地域づくり事業協同組合について

**答** 奄美市内事業所の季節的な労働需要に応じて人材を派遣するマルチワーク型の労働者派遣事業を展開している。宿泊業や観光サービス業、飲食業、インターネット関連事業など11事業者が組合員として参加。繁忙期に応じて派遣先を調整しており就職につながるケースもある。派遣職員にとっては、給与を協同組合が保障するため安定した収入が得られるメリットがある。

### 商工費

**問** 奄美市加工品販路拡大事業補助金について

**答** 物産展などへの参加料や旅費など出展関連費用の他、PR素材の作成やウェブ制作委託費、加工品の輸送費、ネット通販サイトの登録料、パッケージ開発費などが対象で、幅広く活用されている。

### 土木費

**問** 市営住宅の修繕について

**答** 電気設備で92件、給排水設備で194件、ドア・窓で75件、ガラスで35件、その他で117件の合計513件を外部事業者へ依頼した。その他の軽微な補修は大工が対応している。

### 教育費

**問** 奄美博物館デジタルアーカイブ基盤整備事業フィルムデジタル化業務について

**答** 令和6年度から奄振事業を活用して開始。所蔵する資料約10万点をデジタルアーカイブ化する取組で、デジタル化を終えた資料は順次ホームページに掲載していく予定。

## 特別会計決算等審査特別委員会

### 国民健康保険事業特別会計

**問** 国保運営協議会について

**答** 国保の健全な運営のために、保険医代表・被保険者代表（自治会長等）・公益代表で構成。

**問** 自賠責徴収金額971万4,104円の主な要因は

**答** 一番大きい要因は交通事故によるもので、特に歩行者と自動車の事故が大きな要因を占めている。

### 後期高齢者医療特別会計

**問** 保険料の不能欠損額の推移について

**答** 令和2年度が4万6,200円、令和3年度が6万1,700円、令和4年度が7万6,900円、令和5年度が6万7,964円、令和6年度が6万800円。今後も同じような形で推移していくものと見込んでいる。

### 介護保険事業特別会計

**問** 要介護・要支援認定者数の推移について

**答** 令和2年度までは増加傾向で2,800名程度まで増加。それ以降の認定者数はほぼ横ばいで推移している。

**問** ケアマネジャーの人数は

**答** 名瀬地区は8名在籍しており、担当件数は一人当たり概ね40件から50件の間。住用地区は1名在籍で、担当件数は20件程度。笠利地区は2名在籍で、担当件数は30件程度。

### と畜場特別会計

**問** 豚のと畜頭数が減少した要因について

**答** はっきりとした要因は不明だが、精肉店の閉業が関係していると考えている。2,000頭という目標があるので、農政部などの関係部署とも連携しながら、目標達成に向けて需要拡大に努めていきたい。

### 水道事業会計

**問** 収益構造の悪化について

**答** ここ2、3年のインフレの状況、人件費高騰などにより経営がかなり悪化している。令和7年度の決算などを分析し、第三者や専門家の意見を取り入れながら、今後の対応を考えていく。

## 議会の動き

### 【8月】

- 1日 議会だより編集委員会  
関西名瀬連合会「歓迎のタベ」  
奄美まつり（～3日）
- 5日 奄美市中学生ひかり議会
- 8日 議員定数・報酬等特別委員会研修会、  
全員協議会
- 10日 あやまる祭り
- 15日 戦没者合同慰霊祭、政策立案推進会議
- 22日 議会運営委員会

### 【9月】

- 8日 議会運営委員会、第3回定例会開会、  
全員協議会
- 9日 一般質問（～12日）
- 12日 パーパレス会議システム体験会
- 15日 敬老の日祝賀会
- 16日 本会議、全員協議会
- 17日 文教厚生委員会
- 18日 産業建設委員会
- 19日 総務企画委員会
- 25日 本会議
- 26日 決算等審査特別委員会  
（・29日・30日・10月1日）

### 【10月】

- 5日 芝山町制施行70周年記念式典
- 8日 最終本会議
- 14日 県市議会議長会政務調査（～16日）
- 16日 笠利地区招魂祭
- 31日 議会だより編集委員会

## ～お願いとお知らせ～

### 議員の寄附行為等の禁止について

公職選挙法により、政治家は選挙区内の人に対して現金等を寄附したり<sup>※1</sup>、年賀状などの時候のあいさつ状を出したりすること<sup>※2</sup>が禁止されています。

また、有権者が政治家に対して寄附を求めることも禁止されています。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



※1 自らが出席する葬式の香典など、罰則の対象外となるものもあります。  
※2 答礼のための自筆によるものは除きます。

## 市議会だより 編集委員会

【委員長】 奥晃郎  
【副委員長】 帯屋誠二  
【委員】 朝木一仁  
大庭梨香  
前田要  
崎田信正

## 第4回定例会の予定

令和7年12月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
		開会	一般質問			
14	15	16	17	18	19	20
	一般質問	本会議	常任委員会			
21	22	23	24	25	26	27
			最終 本会議			
28	29	30	31			

## 議会をご覧になりませんか

議会では、市民生活に関係のある重要な問題が審議されています。  
議会を傍聴して、市政の動向や皆さんが選んだ議員の活動を間近でご覧になれます。

### 「傍聴」

事前連絡は不要です。  
奄美市役所名瀬庁舎8階  
にお越しください。

### 「議会中継」

議会の様子を  
インターネットで  
生中継しています。

## 編集あとがき

9月に上梓された『奄美妖怪考』を拝読しました。それによると奄美の妖怪「ケムン」に対してシマの人は、恐れるだけではなく敬うという「畏怖」の念を抱いていたそうです。その念は大きな言い方をすると、「自然に対する畏怖」を源泉とするものと考察されています。しかし現在、シマにおいては人と自然の立場が逆転し、強い人間が弱い自然を保護する「自然保護」となり、その次は世界自然遺産の指針でもある「多様性」を軸とした「共生」を目指すものと変化してきました。

奄美市では多岐にわたる施策を基に、「共生」を目指し取り組んでいます。私も今後は、議会活動を通じて自然と共生できる社会づくりの一助を担って行きたいと思っています。

—これからは「開発」「保護」「共生」という3つのワードに基づいて地域経済が潤い、自然に対する畏怖の念が減ったことで『怖いケムン』はいなくなりましたけど、『お友達ケムン』と共に暮らせる自然豊かで情緒溢れる社会、自然と共生できる社会づくりに貢献していきたいと、拝読した後は強く思いました。

【帯屋 誠二】